

公立大学法人島根県立大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 評価にあたって

- 大学を取り巻く環境は、急速な少子化により18歳人口が減少する一方、短期大学の四年制大学への移行などによる大学数の増加等の要因により、いわゆる大学全入時代へと向かっており、多くの優秀な学生を確保しながら定員を充足させていくことは困難になりつつあり、厳しさを増している。こうした中、県立大学は民間的発想を取り入れた効率的な経営を行いながら、地域や時代の要請に応え、特色ある、学生にとって魅力ある高等教育機関として発展していくことが求められている。
- 一方、島根県では全国に先駆けて少子・高齢化が進行し、人口が減少する中で、中山間地域振興や産業振興が求められるなど、これまでの発想を転換し、新たな価値観を創造して解決に取り組む課題が生じている。したがって、これらの課題を解決するため、豊かな教養を備えるとともに、高度な学問を修め、創造力と課題解決力に富んだ人材の育成が急務である。
- 島根県は、平成19年4月に島根女子短期大学と看護短期大学を統合して、島根県立大学に併設するとともに、地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立し、この法人に県立の大学及び短期大学の人材、財産を一括して引き継ぎ、平成19年度から平成24年度までの中期6年間に達成すべき目標（中期目標）を指示した上で、大学運営の自主性、自律性を高める大学改革を行った。
- この改革は、新しい大学運営のシステムを取り入れることにより、業務運営の効率化はもちろんのこと、大学における教育研究活動を活性化させ、地域や時代の新たな要請に機動的に対応し、島根の特色を生かした魅力ある大学へと発展を図ることをねらいとしたものである。このような時代の要請や、県による大学改革の目的を踏まえ、公立大学法人島根県立大学は、平成19年度から県内3地域にキャンパスを持ち、四年制大学と短期大学という特色と歴史の異なる複数の大学を併せて運営することとなった。
- 島根県公立大学法人評価委員会は、この公立大学法人島根県立大学による業務実績を毎年度評価し、県民に対して大学運営の状況を明らかにすることを使命として、平成18年度に県の附属機関として設置された。
- 評価を行うにあたり、当評価委員会は、公立大学法人島根県立大学に対し、法人が自ら定めた年度計画に対する当該年度の業務実績の報告と個々の実績に対する自己評価を求めた。
- 平成23年度の評価結果については、顕著な成果を伴った実績が数多く認められ、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価したところである。
- このたび、平成24年度の業務実績について、法人自己評価を検証した上で評価を行ったので、「全体評価」、「中期目標項目（「大学の教育研究等の質の向上」以外の項目）別評価」及び「「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価」に区分して、その結果を示す。
- 当評価委員会では、今後とも県と連携し、県民の目線に立った評価を行うことにより、公立大学法人島根県立大学がこの評価を積極的に活用し、中期目標の確実な達成を図るとともに、既に平成25年度から始まっている次期中期目標期間をも見据えて、教育研究をより一層充実させていくことを期待する。

2 全体評価

○平成 24 年度の法人運営・教育研究については、前年度の業務実績評価を踏まえた改善もみられ、中期目標の達成に向けて年度計画を順調に実施しているものと認められる。中期計画の進捗面では、特に大きな遅れや改善を要する事項は見られなかった。

○当評価委員会が、特に高く評価する項目は以下のとおりである。

- ・浜田キャンパスにおける受託・共同研究の受入れ体制の整備 (No.157-2)
- ・浜田キャンパスにおける学外者からの大学施設使用料の確保 (No.159-1)
- ・出雲キャンパスにおける幅広く県民等からの意見を聴く機会の設定 (No.176)

○なお、中期目標の項目中、「大学の教育研究等の質の向上」についての評価は、外形的、客観的な取組状況について特筆すべき点又は遅れている点を示すこととしており、当評価委員会では、教育研究面を評価する視点として中期目標で掲げる大学の基本的な 3 つの目標 (①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学) に照らして評価を行った。

○この結果、平成 24 年度においては、3 つの基本的な各目標において特筆すべき点が数多く見られ、「学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学」の面では、浜田キャンパスにおける入学者選抜試験選抜方法の見直し、出雲キャンパスにおける「キャリアデザイン講座」の進路セミナー開催、松江キャンパスにおける紹介用プロモーションビデオの作成など、質の高い教育の提供への注力が認められた。また、「地域に根ざし、地域に貢献する大学」の面においては、浜田キャンパスにおける大学負担によるボランティア保険加入制度の整備、出雲キャンパスにおけるボランティア研修会の実施、松江キャンパスにおける「椿の道アカデミー」20 周年記念講座の実施など、地域貢献に対する積極的な姿勢が認められた。さらに、「北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学」の面では、カザン大学准教授との共同研究など、研究ネットワークの有効性が認められた。

○平成 23 年度の業務実績評価で今後の取組が期待されるとした事項は、取組の進捗状況がやや遅れている事項が一部見受けられたものの、概ね改善が図られていると認められた。

○以上のことから、法人化 6 年度の平成 24 年度の業務運営は、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

3 中期目標項目（「大学の教育研究等の質の向上」以外の項目）別評価

（1）年度計画の評定平均値による各項目別評定結果

○中期目標の項目中「大学の教育研究等の質の向上」を除く4項目については、年度計画項目別評価における各項目の評点の平均値により、中期目標の達成に向けた進捗状況を示すこととしている。平成24年度の業務実績について、法人自己評価を検証した結果は下表のとおりであった。

○中期目標項目の全てが、「A」と評定される平均値3.5以上であり、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

中期目標の大項目	評点平均値※	評 定	
①新たな大学構想の確立と実現に向けた取組	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.05	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.09	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要事項	3.95	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評定し、中期目標の大項目ごとに平均値を算出したもの。

評定：評点平均値に応じて、AA、A、B、C、Dの5段階で評価。

○次に、上記4項目の評価を行った際、年度計画の項目中において「顕著な成果が見られた事項」及び「今後の取組が期待される事項」が見られたので、以下の（2）、（3）のとおり示す。

(2) 顕著な成果が見られた事項

評価対象とする事項	評価の根拠（数値データ等）	評 価	
自主的、自律的な組織・運営体制の確立	<p>浜田キャンパスにおける受託・共同研究の受入れ体制の整備 (No.157-2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究・受託研究に関する規程を外部公表し、受入れ体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の整備という所期の計画を上回り、公表に至ったことを評価する。 ・今後受託・共同研究の実績が増え、外部資金の獲得に結びついていくことを期待したい。
	<p>学外者からの大学施設使用料確保 (No.159-1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田キャンパス施設開放実績 収入金額 3961 千円（対前年度比 174 %） 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設概要をホームページに掲載するとともにバナーをトップページに配置するなどの取組みを実施した結果、大幅な増収となったことを評価する。
その他業務運営に関する重要事項	<p>出雲キャンパスにおける幅広く県民等からの意見を聴く機会の設定 (No.176)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスモニター会議を 3 回実施し、意見交換した。 ・海士町においてタウンミーティングを実施し、「地域医療のあり方」について意見交換した。 ・益田市においてタウンミーティングを実施し、「看護教育のあり方」について意見交換した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海士町のタウンミーティングが隠岐島前高校からの入学者獲得に結びつくなど、具体的な成果として表れたことを評価する。 ・益田市のタウンミーティングで出された意見が「出雲キャンパスのあり方検討会」の中で参考とされており、実際に出された意見が活かされていることを評価する。 ・今後も地域から得られた意見を大学の教育や運営に生かすなどの取組みを引き続き期待したい。

(3) 今後の取組が期待される事項

	評価対象とする事項	評価の根拠（数値データ等）	評 価
その他業務運営に関する重要事項	情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づいた文書管理 (No.181-1)	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に導入した文書管理システムに、既存のファイルサーバーから順次データを移管し、情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づいた文書管理を実施するため、現在の情報セキュリティポリシーの再検討を行った。その結果、平成25年度中に各キャンパス教職員により、見直しを実施することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> データの移管を順調に実施したことは評価できる。 情報セキュリティポリシーが島根県立大学の実態に即したものとなるよう、見直しを進められたい。
	情報セキュリティポリシー講習 (No.181-2)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者全員に実施することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> システムの整備を計画的に実施していても、使用者のシステムに対する適正な認識がなければ事故につながる恐れもあるため、全員を対象とした効果的な講習を実施されたい。

4 「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価

「大学の基本的な目標」からみた教育・研究評価の視点	特筆すべき点（注目される点）	遅れている点（課題がある点）
<p>①学ぶ意欲を大切に、高めていく大学</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学ぶ意欲を大切に、高めていく取組が見られるか。 ・質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされているか。 	<p>（入学者確保・志願者対策）</p> <p>◇松江キャンパスの紹介用プロモーションビデオを作成し、ホームページに掲載すると共に、今年度作成したパワーポイントによる説明と併せ、大学見学会等において活用した。ミニオープンキャンパスでは、前年度比 127%となる 153 名の参加があった。(No.2-4)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、平成 27 年度入学者選抜試験について、入試制度検討委員会の開催により、選抜方法の見直しを行うこととした。(No.4)</p> <p>◇出雲キャンパスにおいて、推薦入試に大学入試センター試験（3 教科 3 科目）を導入し、一般入試を 4 教科 4 科目から 5 教科 5 科目に変更し、学習意欲の高い受験生の確保に努めた。(No.4)</p> <p>（進学・就職）</p> <p>◇浜田キャンパスで活用している就職活動記録システムを、支援体制が類似する松江キャンパスにも導入し、情報共有の効率化を図った。(No.80-1)</p> <p>◇短期大学の進路セミナーでは、看護学科 2 年次生に「キャリアプラン対策講座」、看護学科 3 年次生と専攻科の学生を対象に「エントリーシート対策講座」「小論文対策講座」「面接対策講座」を開催した。 看護学部看護学科では、1 年次生に「キャリアデザイン講座」の進路セミナーを開催した。(No.80-4)</p> <p>◇都市部で就職活動を行う学生が安価に宿泊施設を長期確保できるよう、ウィークリーマンション事業者を招き利用説明会を行った。学生が特別割引価格で宿泊できるよう交渉し、学生証の提示または専用サイトからの申込により割引価格が適用されることとなった。説明会には 20 名の学生が参加し、</p>	

	<p>11名の学生が申し込みをした。(No.85-1)</p> <p>◇キャリア担当教職員とキャリアアドバイザーの計6名が、合同企業説明会、商工団体や行政組織主催の企業集合イベント等にも可能な限り参加し、延べ3500名と接点を持った。 新規開拓した企業のうち、7社から内定を得ることができた。</p> <p>さらに、卒業生の就職先企業を広く訪問し、採用担当者と情報交換し、卒業生社員の状況把握に努めた。 (No.81)、(No.85-2)</p> <p>(留学)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、昨年度からリサーチツアーの機会を活かして延辺大学との交流を深めてきた結果、今年度は3名が大学院を受験し、合格した。(No.119-1)</p> <p>◇今年度から、キャリア体験科目「企業体験実習」の内容を「海外企業研修」とするとともに、対象年次を1～3年生とし、幅広い学生の参加を促した結果、浜田キャンパスではインドコース、韓国コースで合計38名、松江キャンパスでは合計7名の参加があった。(No.122)</p> <p>(教育・研究)</p> <p>◇NEARセンターは、センター研究員の同意を得て、科研費計画調書の学内閲覧を可能にし、研究情報や科研費情報の共有を図った。(No.108-4)</p>	
<p>②地域に根ざし、地域に貢献する大学</p> <p>・地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材育成が行われているか。</p> <p>・地域に知の還元が行われ、地域社会の活性化と発展に寄与する取組が見られるか。</p>	<p>◇浜田キャンパスにおいて、ボランティア活動前に大学負担によるボランティア保険に加入することで活動リスクの軽減が図られたため、気軽に学生ボランティア活動に参加することが可能になった。(No.109-3)</p> <p>◇松江キャンパスにおいて、「椿の道アカデミー」20周年記念講座として、3講座を実施し、公開講座の充実に積極的に取り組んだ。通常の公開講座、20周年記念講座、客員教授講座等に昨年度を大幅に上回る2,800名が参加した。</p>	<p>◇次期の課題として、浜田キャンパスで進行している地域研究が何らかの資格や免許につながる仕組みができないか、工夫・検討されたい。</p>

	<p>(No.110-8)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいて、NPO法人結まーるプラス、NPO法人てごねっと石見等の活動に、学生も含め参加し協力関係を促進した。(No.113-2)</p> <p>◇出雲キャンパスにおいて、ボランティア保険とボランティアマイレージ制度の普及・啓発を兼ねて5月26日にボランティア研修会を実施する等により、目標としていた150名を上回る152名の登録者数となった。(No.113-4)</p> <p>◇浜田キャンパスにおいては、浜田市、江津市、益田市からの委託を受けて受託・共同研究等を実施した。島根県とのさらなる連携について調整を始めた。(No.114-2)</p>	
<p>③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学</p> <p>・北東アジアを中心とした総合的な教育が推進されているか。</p> <p>・外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。</p>	<p>◇北東アジア研究会は7回、日韓・日朝交流史研究会は4回開催した。研究会は他の研究会との連携・交流を図り、毎回の内容が充実し、開催回数も予定を上回った。(No.90-1)</p> <p>◇ニューズレター『NEAR News』の誌面と内容を変更したことにより、研究員の活動を以前にも増して多く紹介することができるようになった。(No.98-4)</p> <p>◇カザン大学准教授ウスマノヴァ・ラリサ氏が5月に来学し、服部四郎をテーマにした学術交流を進めることとなった。センターの研究交流の外国側窓口としてプログラムで養成した研究者のネットワークが有効に機能することが確認された。(No.104)</p>	

公立大学法人島根県立大学平成24年度業務実績評価 評点算定表

中期目標(大項目)	平成24年度計画評点			中期目標項目別評価結果	
	中期目標(中項目)	評点合計 (A)	計画項目数 (B)		評点平均 (A)/(B)
	中期目標(小項目)				
I. 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織					
II. 新たな大学構想の確立と実現に向けた取組		4	1	4.00	A
III. 大学の教育研究等の質の向上					
IV. 自主的、自律的な組織・運営体制の確立		162	40	4.05	A
1 業務運営の改善及び効率化		84	21	4.00	
(1) 運営、組織体制の改善による効率的、合理的な経営		52	13	4.00	
(2) 人事の適正化による優秀な人材の活用		32	8	4.00	
2 財務内容の改善による経営基盤の強化		78	19	4.11	
コスト意識の涵養、内部チェック体制等		8	2	4.00	
(1) 自己財源の充実		62	15	4.13	
(2) 経費の抑制		8	2	4.00	
V. 評価制度の構築及び情報公開の推進		45	11	4.09	A
1 評価制度の構築		41	10	4.10	
総合的な評価制度の構築		4	1	4.00	
(1) 組織を対象とした評価制度		33	8	4.13	
(2) 個人を対象とした評価制度		4	1	4.00	
2 情報公開の推進		4	1	4.00	
VI. その他業務運営に関する重要事項		87	22	3.95	A
1 広報広聴活動の積極的な展開等		37	9	4.11	
2 施設設備の維持、整備等の適切な実施		12	3	4.00	
3 安全管理対策の推進		30	8	3.75	
4 人権の尊重		8	2	4.00	

(※評点平均値が4.3以上→AA、3.5以上4.2以下→A、2.7以上3.4以下→B、1.9以上2.6以下→C、1.8以下→D)